

令和3年度 自己評価報告書

令和4年4月1日

学校法人小牧外山学園 とやまこども園

1. 本園の教育目標

見る・待つ・引き出す保育、笑顔と歓声があふれる保育、手を取りあう保育を通して園児の主体的な活動を促し、遊びを通しての指導を中心として、幼児期の終わりまでに育つことが期待される、生きる力の基礎となる心情・意欲・態度などを育成する。

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

子どもが主体的に、自ら感じ、選び、学ぶことができる環境を整える。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	具体的な取り組みと自己評価
1	保育環境 安心して落ち着いて遊び込める環境を充実させていく	新たな絵本コーナー、畑づくり、乳児用の砂場、各クラスパーテーションや玩具の置き場などの環境づくりに取り組み、じっくりあそびを深めていける環境設定ができた。また、子どもたちが選択したり、場を設定したりするなど、やりたい遊びが存分できるよう働きかけた。
2	保護者対応 丁寧な対応を心掛け保育参加の機会を設け、園での様子を知らせていく	ドキュメンテーションで日々の保育の様子を伝えたことで、子どもの育ちを保護者の方と共通理解し、共に育ちを支えることが出来た。子育ての楽しさや大変さにも共感し、安心して預けていただけるよう、担任だけでなく職員全員でミーティングや保育ノートで共有しあい、たくさん保護者の方に声を掛けるように努めた。
3	幼児理解を深める ミーティングやケース検討を行い子ども理解に一層努める	毎日のミーティングの持ち方、内容の充実を図った。写真を使って保育を語り合ったり、グループに分かれて意見交換を行ったりし、関わり方は1つではなく多様な考えがあることを知り、さらに子ども理解を深めあった。

4. 総合的な評価結果

環境を見直すことで子どものあそびの変化が見られ、落ち着いて遊び込める環境の工夫ができた。また、ドキュメンテーションやブログを通して、保護者の方と子どもの姿を語り合い共通理解が出来た。

5. 今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み
1	保育環境	教職員同士が協力・連携し、異年齢の子ども達との交流がさらに深まるような環境づくりの工夫をする。
	地域・自然・社会とのかかわり	子どもを介して大人も繋がる、地域、自然とも繋がる、共主体の保育を考える。
3	幼児理解を深める	自己肯定感をはぐくみ、自信をもって生活していく力を育てるために幼児理解を深める。

